

地域と一体となった川づくり

～都市再生に配慮した治水事業（長良川プロムナード）について～

中部地方整備局 木曽川上流河川事務所
長良川第一出張所 技術係長 平野 浩二

1 はじめに

長良川右岸長良橋付近は、前方に金華山・岐阜城を望み、目の前の長良川は、鶺鴒シーズン時には水面を赤く染める篝火に照らさる清流であるが、河畔道路には多くの車が走っていたため、ヘッドライトの光が鶺鴒の幽玄さを損なっていた。また、歩道や護岸の小段も狭く、危険で歩きにくい場所となっていた。そこで、人々が岐阜市の観光シンボル金華山・長良川を眺めながらゆったりと散策できるように長良橋周辺から鶺鴒大橋周辺までの空間を整備し、回廊として生まれ変わらせるため、長良川プロムナード計画が構想された。この計画は、長良川温泉旅館街に面する主要地方道岐阜美濃線のバイパス事業としての都市計画道路長良古津橋線の整備と鶺鴒大橋の整備が契機となり、平成11年度に岐阜県、岐阜市により立案し提案された。

2 長良川プロムナード計画

2.1 計画の概要

本計画は、長良川沿いの空間を特徴づけている地形・樹木といった自然環境や土地の利用形態、周辺地域との関係などの要素から7つの空間にゾーニング設定をおこなっている。そのうち今回は鶺鴒観覧ゾーン（鶺鴒の鑑賞や対岸の金華山や岐阜城を望めことができ散策し楽しむゾーン）に都市再生プロジェクト事業推進費を採択することにより、今回地域再生に配慮した治水事業を設計施工することとなった。



2.2 地域と一体となった川（街）づくり～具体化に向けた取り組み

地元総意の計画とするため、地域住民と国、県、市が相互に協力し、計画の具体化を進めるために以下の2つの組織を設置した。

長良川プロムナード計画関連まちづくり懇談会（平成12年7月26日）

メンバー：住民代表（まちづくり協議会）、鶺鴒匠、温泉旅館協同組合、学識経験者

長良川プロムナード事業推進協議会（平成12年7月25日）

メンバー：国土交通省木曾川上流河川事務所、岐阜県、岐阜市

そして、平成16年11月に都市計画道路長良古津橋線の供用、平成17年3月に愛知万博の開催が予定されており、長良川河畔一帯での集客の増加が見込まれるため、長良川河畔再開発拠点である長良川ホテル跡地整備より先行して、暫定的に河畔整備（プロムナード護岸整備）の実施となった。

3 長良川プロムナード設計・施工

設計施工にあたっては、河畔道路は人への優しさを第一に、護岸は水害に対する安全性と歴史、自然への配慮を第一に、川と道とがひとつになった整備を心がけて進めた。

護岸部は、国土交通省施工であり、護岸は周囲を調和する伝統的な玉石を基本とし、急な既設階段を歩きやすいように緩やかな階段とした。川岸は玉石を積んだ階段護岸とし、川に近いところで人々が景観を楽しめるようにした。川表小段は幅を広げ、デッキ材を張ることにより歩きやすく、歩道と一体となった景観をつくり出した。護岸根固めには木工沈床を用い、魚の住みやすさにも配慮した。

一方、河畔道路の歩道部は岐阜市が施工することとなり、その内容は、保水性舗装、足下照明、植栽、ソーラー照明、ベンチなどであり、夏場や夜間を想定した配慮が施され、のんびりゆったりできる遊歩道整備をした。岐阜市の施工担当者とは、ほぼ毎日のように顔を合わせて地元状況の把握や細かい部分においても情報を共有して苦情の無いように努めた。

また長良川沿いは観光地としての一面と住民の居住地としての一面を持つため、地域住民との総意がとれるように努めた。中でも1,300年の歴史を持つ鵜飼については特に考慮し、何度も鵜匠さんと現地にて使い勝手や鵜の習性等もお聞きして設計に反映し施工をした。

そしてプロムナード整備を行う長良橋左右岸の川原町地区・鵜飼屋地区は堤防の外にある特殊な地域であるため、近年の出水の多発、短時間の水位上昇（H16年10月台風23号）で住民避難対応の状況判断が困難になってきた。よってハード面の護岸整備と一緒にソフト面での情報発信として河川情報板を設置することとなった。

工期については、都市再生プロジェクト事業推進費を採択されてからの工事発注となったため、実質工期が3ヶ月半程度と短い工期の施工となり、工程管理のための工夫が必要となった。

3.1 プロムナード護岸工事

(1) 工事概要：プロムナード低水階段護岸 約700m、高水護岸100m、
左岸河道掘削 約7,000m³（右岸洗掘部補強に伴う、河積断面減少を補うための整備）

工期 平成16年11月～平成17年3月

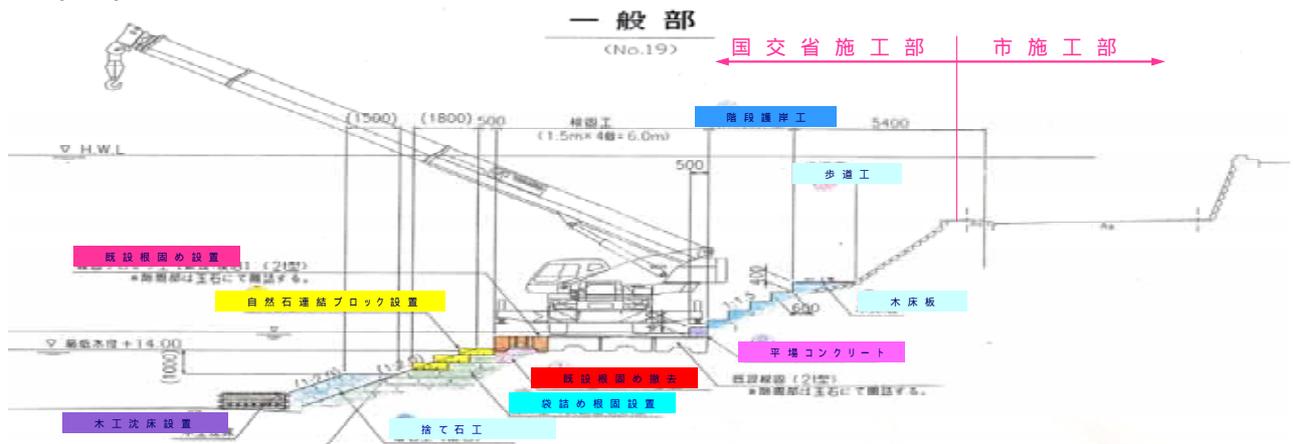
工事金額 約4億円

(2) 施工工夫

プロムナード低水護岸工事においては、市施工部も同時施工となり施工ヤードが錯綜する恐れがあるため、既存の基礎ブロック天場を作業ヤードとして使用することにより工期短縮と現場の錯綜を無くすように行った。

国交省施工業者2業者2工区、市施工業者が4業者3工区に分かれていたため、国(長良川第一出張所)・市(道路建設室)・6施工業者で調整会議を隔週おこない、施工工程及びデザインの統一感が出るよう調整した。

(3) 工法工夫



1) 既設根固め撤去・設置・袋詰め根固め設置

洗掘部は地形に追従する袋詰め根固めを採用し、中詰め石には長良川の玉石を使用して万が一袋が破れても魚介類等の生育環境への影響が無いように考慮した。工事施工ヤードが無い場合、採取地にて製作し現地に運搬を行った。



2) 木工沈床設置・捨て石工・自然石連結ブロック設置

本地区は言うまでもなく鵜飼いで有名な所であり、魚介類の待避や生育場所が必要なため多自然で空隙の多い木工沈床を採用した。また本施工箇所は、水深が深く、川幅が狭いため、仮締切が難しい箇所であった。そこで陸上で製作し、水中施工が出来る改良木工沈床を採用した。



3) 階段護岸工・平地コンクリート・遊歩道・木床板・スロープ設置

階段護岸は、鵜飼や花火大会等に座って観覧ができるようベンチ型にした。景観を考慮して、上面は水面に映える洗い出し風の天然石樹脂舗装を行い、側面は既設上部玉石護岸に合わせて自然石玉石積みとした。また既設護岸との風あいを合わせるためコン



クリートに黒色の顔料を添加し、見た目の調和も考慮した。

間伐材利用促進の観点からウッドデッキを間伐材木床板にすることとなったため、腐食を考慮し、樹脂を注入させて防腐加工したものを使用した。小段幅が一様では無いため、既設護岸との間にも川石をランダムに配置して見た目の調和を考慮した。

車いすの人でもできるだけ川に近づいて楽しめるようにスロープを設置しバリアフリーとした。安全対策として転落防止を兼ねた手摺りを設置し、出水時に取り外しが可能な脱着式とした。



4) 河川情報板設置

この情報板は、出水時の水位情報や避難情報はもちろん、平常時の河川啓蒙や観光案内または地元広報などに使われる。また情報板を設置するという事で、情報板の大きさ、高さ、向きについては地元住民の意見が反映される様、疑似ボードを製作して、まちづくり協議会と現地にて協議し決めた。



4 今後の課題

根本的な治水対策の課題が残る当地区であるが、今後は、この景観を保ち続けるため、アダプトのような地元が愛着を持って管理してもらうルール作りを行う必要がある。また今回の長良川プロムナード整備は、計画から設計施工に至るまで地域との連携を重視してきた。その中で地元住民の意向である治水重視と都市再生を目的とし、景観に配慮した護岸では意見の隔たりも大きく、調整には苦労した。今後、設計施工（整備計画策定）において、いかにして事業（計画）の目的を地域に周知させて、住民の総意をくみ取り、迅速に反映させて行うかは公共事業として大きな課題となるであろう。さらに、事後評価をおこない、より良い活用が図られるようにフォローアップしていく必要がある。



5 おわりに

雄大な自然に癒される空間として生まれ変わり、鶺鴒開幕日には、右岸プロムナード整備を行った護岸、河畔道路に約3,000人が川風に当たりながら散策し、鶺鴒の幽玄さを楽しんだとのことであった。この河畔整備によって長良川プロムナード整備区間一帯が住民、観光客に長く親しまれる地域となり、地域再生のまちづくりの一助となれば幸いである。

蛇足であるが地元出身の小生がこの事業に携わることができ、大変光栄に思っている。最後に設計施工に御協力頂いた皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。